青少年らしき

家庭版

発行
倉敷市教育委員会
編集
生涯学習課
☎ 426-3845

5月

「明るい家庭づくり」「少年の主張岡山県大会」作文

四月号に続いて昨年度岡山県青少年育成県民会議において優良賞を受賞した中学生作品一点を紹介します。また、第四十四回「少年の主張岡山県大会」（同会主催）で最優秀賞を受賞した作品一点を紹介します。なお、市の優秀賞、優良賞は倉敷市のホームページに掲載しています。

≪優秀賞≫
「逆境の中で咲く花のように」

西中学校　三年　妹尾　心福

夏休みのある日、母や姉たちと電車に乗り買い物に出掛けました。いつもは母の車で移動することがほとんどでしたが、久しぶりの電車は何だか新鮮でした。乗って数分たった頃、母が、突然立ち上がり、入り口のドアの方へ近寄っていきました。「どうしたんだろう」と思った矢先、ドアが開いて私の目に入ったのは、赤ちゃんを抱っこして、バギーカーを持ったお母さんでした。すると、兄が母に気づき、母がとっさに持ってあげようとしていたバギーカーを車内へ持ち運び、空いてる席へ誘導してあげました。

赤ちゃんを抱っこしたお母さん

赤ちゃんが座ったのを確認すると、ニコニコしながら母と兄が戻ってきました。何だか私まで嬉しくなってしまいましたが、ふと、「ママ、バギーカー運べると思ったん？」と聞きました。

私の母は、脳性麻痺で、生まれつき右手足が不自由な一級障がい者です。歩行の時は、杖を使うことが多くなりましたが、工夫しながら、ほとんどの事は、左手だけでこなしています。

しかし、当然、難しいこともいろいろあります。だから、杖を持った母が、バギーカーを運ぶには無理があるのではと思ったのです。

結局、状況を察した兄が手助けする形になったのですが、私は、いつも周りの人の事を最優先に考える、そんな母が大好きです。ハンディを持ちながら、誰にも頼ることなく何でもこなし、家族のために働き、子育てしながら家事をする立派な母です。

母の偉大さを実感したのは、四年前、父の病気が見つかったときでした。ガンであることが分かったときには、ステージ四の末期でした。

身体中に転移したガンは、普段の生活に支障をきたすようになり、母の手助けが必要になりました。

通院時には手足の不自由な母が父の車椅子を車に積み下ろし、身体の大きい父を車椅子に乗せ、押して歩く、想像しただけで大変なのは私にも分かりました。

しかし、母は、父や私たちの前では辛そうな顔は一切見せず、むしろ明るく前向きな姿にすごいなあと思っていました。

もちろん父もそんな母がそばに居たから病気で辛くても安心して過ごせていたんだと思います。闘病中、父は、「本当は、パパがママの手足になって歳をとっても助けてあげようと思っていたのに、ごめんね。」と言っていたのを覚えています。どんな状況でもお互い支え合う思いやりを感じ、本当に両親のもとに生まれてきて良かったと思いました。

私は、以前一度、母に「ママは、手足が不自由で大変じゃろ？　自分を嫌いになったりしないん？」と聞いたことがあります。すると母は、にっこり笑って、「大変？　そりゃあ、みんなから見たら右手も使えんし、走る事も出来んしかわいそうと思うんかもしれんけど、気がついたらこういう状況だし、工夫のしようで意外と何とかなるもんなんよ。この身体は個性かな。顔や性格がみんな、違うのと一緒だよ。だって、友達だっているし、就職もして、おまけにこんな身体でもパパは結婚してくれてさ、こんな愛おしい子どもたち三人に囲まれて幸せだよ。」と言いました。逆境でも乗り越えて行こうと前向きに、そして常に明るくいる姿は、父の看病をし、父が亡くなるまでずっと変わりませんでした。私たち兄妹は、そんな母をずっと見てきて、感じていることは三人一緒だったと思います。姉が、「ママは偉いね。」と言うと、「ママな、幼い頃からいつも誰かに支えられてきたんよ。こうして明るくいられ

倉敷市立船穂中学校　２年　林　優喜　（令和４年度）
「弓」（水彩画）漢字として見ても絵として見ても、違和感を感じないように、漢字のフォルムを重視して描くようにしました。

るのは、周りの人のおかげ。だからこれだけは心掛けようと思ってることがあってな。どんな時も笑顔でいること、周りの人に感謝すること、これを忘れなければ自然と多くの人がいてくれるんよ。色んな人がママに声を掛けてくれたり、助けてくれたり、本当にありがたい。だから、ママが助けてもらったように、ママも誰かの役に立ちたい。皆を笑顔にしたい。」と言いました。私が好きなウォルトデイズニーが言った言葉に「逆境の中で咲く花は、どの花よりも貴重で美しい」というものがあります。まさに、母にピッタリだと思います。

大好きな母が、これからも明るくポジティブにいられるように家族で支えあっていきたいと思います。そして、私も、誰かの役に立てるように、思いやりの気持ちを持ち、笑顔と周りの人への感謝の心を忘れずに、明るい未来を築いて、みんながいつも、笑顔でいられるような世の中にしていきたいと思います。

◇最優秀賞◇
「無知とは」

倉敷天城中学校　三年　藤原　綾乃

皆さんは「無知とは罪」という言葉を知っていますか。以前、この言葉を本で知ったとき、私は納得がいきませんでした。知識がないことをまるで犯罪を犯したように言われるのはおかしいと思ったからです。しかし結局、納得のいく結論を出せずじまいでいました。ところが、私はこの言葉の本当の意味を後に知ることになるのです。

私は一羽のセキセイインコを飼っていました。名前をレモンと言い、その名の通り綺麗なレモン色の羽を持つ、とても可愛らしい子でした。レモンを飼うことにしたあの日、私はレモンが少しでも長く生きられるようにしようと心に誓ったのです。本やネットで必死に調べ、レモンが快適に過ごせるよう工夫を重ねました。初めて私の名前を呼んでくれたときは嬉しくて、ひたすらレモンの頭を撫でました。そんな幸せな生活が一転したのは三年後のことでした。レモンの元気がないのです。一度病院へ連れていきましたが、病気ではないとのこと。私は不安を抱えつつ、大丈夫だろうと割り切ることにしました。一か月がたったある日、レモンと遊ぼうと思い、小屋を覗いたときのことでした。レモンが地面に倒れ、痙攣を起こしていたのです。小刻みに体を震わせ、口をはくはくと動かしていました。私はパニックになりました。そのとき両親は出かけており、連絡もつかず、時間ばかりが過ぎていきました。やっと親と電話が繋がり、レモンを病気に連れていけたのは四時間後のことでした。初めて会うベテランの医者はレモンを一目見て、

「この子は今日を越せないね。」

と言いました。体中がカビや菌だらけ、骨と皮しかない最悪の状態だったのです。さらに先生はこう付け加えました。

「日本はインコに関する知識が遅れていて、ネットや本、ましてやペットショップさえもが誤った情報を扱っているのが現状だ。」

と。家に帰ったとき、既にレモンは亡くなっていました。重く沈んだ空気の中、母が放った言葉に私はハッとしました。それは、

「知らないって悪、無知とは罪。」

でした。私はそのとき初めて自分がレモンに対し無知な人間だったことに気がついたのです。

皆さんは自分が知らないうちに失敗を犯してしまったという経験はありませんか。これは正しい情報だろうと鵜呑みにして嘘の情報に踊らされていたことはないでしょうか。三年前、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中が大混乱に陥りました。現在ではコロナに関する正しい知識が広まっていますが、当時はどうだったでしょうか。対応に追われる医療従事者に対して、

「コロナがうつる」

などの誹謗中傷をニュースで目にした人も少なくないと思います。また、トイレットペーパーの生産が止まってしまうという誤った情報が広まり、結果としてトイレットペーパーが品薄になってしまうという事態が起こりました。実際我が家も余分にトイレットペーパーを購入してしまいました。しかし、その生産が止まることはなく、寧ろ自分達で己の首を絞め、品薄という事態を招いたのです。

「無知は罪なり」という言葉には続きがあります。

「無知は罪なり、知は空虚なり、英知持つもの英雄なり」

です。これはギリシャの哲学者ソクラテスの言葉だと言われています。この言葉を私はレモンの死後に知り、それ以来自分の戒めとしています。知識がないことが無知なのではありません。自分がいかに何も知らないか。それを分かっていないことが無知なのです。私達は己の無知を減らすため学ぶことが必要なのです。ですが、ただ知を得ただけではいけません。それを英知まで高めるには行動することが必要なのです。得た知識を行動に起こすことで英雄となれるのです。皆さんも正しい情報を見極めるため、無知が原因で失敗を犯さないようにするため、多くの知識と行動によって英雄となってください。